

シグマ研究委員会燃料計量部会
燃料計量W.G第3回会合議事録

日 時 : 昭和50年8月27日 13:30~17:30
場 所 : 東京本部 第3会議室
出席者 : 久武(東工大), 吉沢(広大), 山田(早大), 加藤(名大),
橋爪(理研), 岡野(京大炉), 喜多尾(放医研), 西村,
田村(原研)

検討資料 : 1) 要求核データ(II)リスト(WRENDA FORMAT)
i) r 線分岐比(加藤)
ii) r 線分岐比(喜多尾)
iii) 中性子断面積(岡野)
iv) 中性子捕獲断面積(西村)
v) 崩壊熱(梅沢)
vi) 核分裂収率(村田)
vii) 遅発中性子(村田)
viii) 半減期(橋爪)
ix) 光核反応(田村)
2) FP核データ News letterのアナウンス(久武)

議 事 :

1. 報 告

i) IAEA, ND G, Lammerより久武委員への手紙(検討資料2)で
Fission Product Nuclear DataのNews Letterが1975年10
月より発行される。同時にLammer氏は評価作業に際してさらに測定者
に要求すべきこと(実験条件, 誤差等の詳細はすでに記述されている)

があれば早急に報らせるようとの要請があった旨報告された。

ii) Advisory Group meeting on Transactinium Isotope

Nuclear Data (1975.11)に、前年度の委託調査(アクチナイド核の半減期)結果を報告してもらおうよう橋爪委員から五十嵐委員へ英文報告書を送付した(橋爪)

iii) Actinide核の調査, 研究報告会合(久武)

科研費で上記の会合が12月初旬から2月初旬にかけて行われる予定で、このW.G.でとり上げている関連テーマについて報告を行う予定である。

IV) 安全審査用核データ(久武)

前回紹介された原子炉の安全審査のための核データのup to dateの問題で、久武委員が原研において、原研放射線管理課長吉田芳和氏より簡単な説明を聞いた。核種は主としてFP希ガスに含まれるもので、これらの核種の核分裂収率、半減期、 $\beta\gamma$ 分岐比である。短期的な問題点はすでに理研浜田氏、喜多尾委員と相談して決定している。将来長期的に、この種の核データのup to dateの必要があり、次回または次回に吉田氏から説明していただくことになった。

V) 原子力学会誌への2年報(久武)

48, 49年度のシグマ研究委員会の活動経過を原子力学会に2年報として報告することになっているので、本専門部会に関する事項を執筆中である。

2. 要求核データ(II)

48年10月に収集されてから以降継続的に検討を重ねてきた、要求核データ(II)のWRENDA様式により原案が各担当者から提出された。

Safeguards 関係では、WRENDA様式の採用は今回が初めてであり、記入の細目についてはまだ定着していない面がある。これらのうち Quantity, Quantity Comments Accuracy and Resolution

Comments, Other Comments, Status (Ref.) の記載と統一についての種々の討論が行われた。最終的には、田村 久武両委員が各担当委員と連絡をとり、統一とまとめを行うことになった。要求核データ(Ⅱ)は1975年10月に予定されているINDC 会議へ提出することを目標に作業を進めることになった。

3. 次回予定

日 時 11月20日(木) 13:30~17:30

場 所 東京本部

議 題 1) 要求核データ(Ⅱ)

2) 1975年INDC 会議(更田)

3) その他